

2018年第3回 IEEE Japan Council 理事会 議事録 (案)

日時：2018年12月4日(火) 14:00～18:00

場所：機械振興会館 6F 6D-4

出席者：津田 Chair、尾上 Vice Chair、杉江 Secretary、眞田 Treasurer、
宮永、亀山、大石、笹瀬、鈴木、稲森(代理)、石橋、山本、
浜村、中西、福田英(代理)、大野(代理)、桑原、原崎、
青山、白川、滝嶋、橋本、西宮、南、西原、福田敏(敬称略、順不同)

オブザーバ：佐波、羽渕、重松、百武、梶川(敬称略)

事務局：加藤、福岡 幹事会社：田島、柴田、望月(次期)

議題：

1. 前回理事会議事録の確認【審議】 資料(1)
2. 2019-2020年理事会・委員会メンバー【審議】 資料(2)
3. 2018年 Japan Council 活動報告 資料(3)
4. 2018年 Japan Council 決算予想 資料(4)

5. 常設委員会 2018年活動報告、2019年活動計画案および予算案 資料(5)
 - 5-1 Chapter Operations Committee
 - 5-2 Student Activities Committee
 - 5-3 Awards Committee
 - 5-4 Industry Promotion Committee

6. Ad-Hoc 委員会 2018年活動報告、2019年活動計画案および予算案 資料(6)
 - 6-1 Long Range Strategy Committee
 - 6-2 History Committee

7. 各支部 2018年活動報告、2019年活動計画案および予算案 資料(7)

8. Affinity Group 2018年活動報告、2019年活動計画案および予算案 資料(8)
 - 8-1 Women in Engineering

9. Coordinator 2018年活動報告、2019年活動計画案および予算案 資料(9)
 - 9-1 MD
 - 9-2 YP
 - 9-3 LMAG

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| 10. 2019 年 Japan Council 活動計画【審議】 | 資料 (10) |
| 11. 2019 年 Japan Council 予算【審議】 | 資料 (11) |
| 12. その他 | 資料 (12) |
| 12-1 R10 SYWL2018 参加報告 | |
| 12-2 次期理事会への引継事項 (案) | |

議事：

0. 津田 Chair ご挨拶

津田 Chair より開会の挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認【審議】 資料（1）

杉江 Secretary より前回理事会（2018年7月開催）の議事録案について説明があり、異議なく承認された。

2. 2019-2020年 Japan Council 理事会・委員会メンバー【審議】 資料（2）

杉江 Secretary より2019-2020年のJapan Council 理事会・委員会メンバーの構成について説明があった。尾上 Vice Chair より2019 IEEE Technical Activities Vice President Elect に就任される小菅一弘氏を Ex-Officio として追加する旨の説明があり、異議なく承認された。

3. 2018年 Japan Council 活動報告 資料（3）

杉江 Secretary より2018年 Japan Council の活動報告があった。

4. 2018年 Japan Council 決算予想 資料（4）

眞田 Treasurer より説明があった。収入は Section Assessment 受領の為替レートが計画に対して円安傾向であったため計画に対し+170万円となった。支出については会議費や予備費削減などで、450万円少なくなった。現時点の収支予測では約200万円が黒字となる見込みである。

南理事より、黒字分を還元できていないという側面について、懸念が述べられた。杉江 Secretary より、Section 還元率を上げること、Student や YP 等の活動に対する長距離の交通費のサポートを考えている旨、説明があった。

津田 Chair より、今後は中間会計で精度を上げていく必要がある旨、コメントがあった。

石橋 名古屋支部 Chair より、若い会員の活性化のために使われることに賛同しており、旅費などが個人負担となることは避けるべきである旨、コメントがあり、議論があった。

尾上 Vice Chair より、個人に負担がかかるのは避けるべきであり、JC か支部か負担するかは別途ケースバイケースで JC と支部で相談とする旨、コメントがあった。津田 Chair より、旅費についてはガイドラインで上限があり、活動は支部が主体となっているため、まずは支部が一義的に費用負担に対応する必要があるとのコメントがあった。

杉江 Secretary より、2018年度の Section 支援費の説明があり、大石信越支部 Chair より追加申請の説明があった。津田 Chair より、支援費については、単に継続していて効果が不明確なものは評価や見直しが必要である旨、コメントがあった。大石信越支部

Chair より 12 名中 2 名が IEEE 会員になった旨、効果として報告された。
次に杉江 Secretary より、福岡支部 MAW への支援額について説明があった。
以上、信越支部 Section 支援費および福岡支部 MAW への支援について異議なく了承された。

5. 常設委員会 2018 年活動報告、2019 年活動計画案および予算案

5-1 Chapter Operations Committee 資料(5-1)

福田 Vice Chair から 2018 年活動報告および 2019 年活動計画が報告された。
来年予算も今年と同様に 400 万円を計上する。Chapter 支援費ガイドラインを実情に応じて改定を行った。Award 登録については、12 月末までに申請されたものについて審議を行う。

津田 Chair より、JC の黒字理由は COC の未払いを組み戻したことが大きい、どのように対応するかを検討したほうがよい旨、コメントがあった。

福田 Vice Chair より、各 Chapter にはすでにお問い合わせしており、報告書があがってこないことから今後対応を検討している旨、コメントがあった。

5-2 Student Activities Committee 資料(5-2)

大野 Secretary より 2018 年活動報告および 2019 年活動計画が報告された。SB 新設の促進および SB 活動の活性化、定常的な SB 活動への支援、SBLTW の実施、R10 Student Congress への派遣や SB への Rebate 手続きなどについて説明があった。

2019 年の活動としては SBLTW の開催、SB の新設、定常的な SB 活動への支援、R10 の支部やイベントを通じた学生交流支援、SPAx 開催などの計画と予算案の説明があった。

南理事より、海外支部との学生交流は、学生を派遣支援することの効果の評価したほうがよいとのコメントがあった。杉江 Secretary より、派遣支援について JC としては次の理事会で審議する形となるとのコメントがあった。津田 Chair より、派遣支援だけではなく活動に主体的に参加することが重要であるとのコメントがあった。

山本関西支部 Chair より支部 SAC、SB 間の連携の促進について質問があった。大野 Secretary より名簿の作成と共有を進めていくとのコメントがあった。

5-3 Awards Committee 資料(5-3)

桑原 Chair より 2018 年活動報告および 2019 年活動計画の報告があった。Awards Committee の活動状況、今後の予定、委員リスト、2019 年 Medal、Recognition リスト、Medal 等受賞者、Fellow 受賞者の年次推移が説明された。

5-4 Industry Promotion Committee 資料(5-4)

原崎 Chair より 2018 年活動報告として、3 回の JC IPC 委員会の開催、MAW2018 支援の検討、WIE ILS 支援、IEEE Awards 担当との打合せについて報告があった。2019 年活動計画として、役員体制および今度の予定について報告があった。

6. Ad-Hoc 委員会 2018 年活動報告、2019 年活動計画案および予算案

6-1 Long Range Strategy Committee 資料(6-1)

尾上 Chair より報告があった。2018 年活動報告として、委員会の開催、各種活性化施策、教育関連活動の企画、財政運営・組織運営の検討、日本語名称の検討を実施したことが報告された。2019 年活動計画として、今後の検討課題と各支部への依頼事項が報告された。

6-2 History Committee 資料(6-2)

白川 Chair より報告があった。2019-20 年の体制、第 13 回委員会の開催、HC 委員会の継続申請について、説明があった。また、継続時の予算として四国での HC 委員会の開催予定が報告された。

以上、Ad-Hoc 委員会として、2019 年から 2 年間継続ということで意義なく了承された。

7. 各支部 2018 年活動計画、2019 年活動計画案

7-1 札幌支部 資料(7-1)

宮永 Chair より報告があった。今年の活動は総会、第 1,2 回理事会の開催、若手研究者や学生向けの表彰事業を実施し、講演会の開催の報告があった。来年の活動としては、総会、理事会および会員数増強のための施策、各種講演会の開催の説明があった。

7-2 仙台支部 資料(7-2)

亀山 Chair より報告があった。今年の活動として、新 Fellow 記念講演会の開催、特別講演会(予定)の開催、学生活動(SAC)、メンバーシップ推進、IEEE Milestone 申請支援、WIE 活動支援等について報告があった。また来年の活動計画について、講演会、MAW2019 の開催や LMAG 設立など各種活動の説明があった。

7-3 信越支部 資料(7-3)

大石 Chair より報告があった。今年の活動報告として、支部役員会の開催、次期役員リスト、R10 Meeting、IEEE セクションの開催、学生への国際会議の奨励賞の報告があった。また来年の活動計画について、講演会、学生増員施策、各種活動の説明があった。

7-4 東京支部

資料(7-4)

笹瀬 Chair より報告があった。総会及び理事会(計4回)の開催、支部講演会やSBの支援、Affinity Groupの活動や受賞などの状況が報告された。また来年の活動計画について、総会、理事会の開催、財政運営、講演会、SB支援施策、各種活動の説明があった。東京支部 SAC 稲森 Vice Chair (理事代理) より、東京支部 TOWERS の開催における旅費支援について、JC SAC 25 万円で予算計上する旨、再確認があり、本予算申請については異議なく了承された。

7-5 名古屋支部

資料(7-5)

石橋 Chair より報告があった。今年の活動報告としては、役員会・理事会、講演会、青色LEDのMilestone申請、表彰事業、研究会等、LMAG、WIE設立の検討が報告された。また来年の活動計画について、役員・理事体制、会員支援活動、理事会の開催、講演会の開催、WIE設立検討、各種活動の説明があった。

7-6 関西支部

資料(7-6)

山本 Chair より報告があった。今年の活動報告としては、関西支部総会、理事会、SBおよびAG活動、支部主催技術講演会、表彰事業の実施について報告があった。また来年の活動計画、予算案の説明があった。

7-7 四国支部

資料(7-7)

浜村 Chair より報告があった。今年の活動報告としては、役員会、総会、支部主催講演会、各種委員会活動、会計報告について報告があった。また来年の活動計画について、各種コミッティ活動、学生支援施策、予算案の説明があった。

7-8 広島支部

資料(7-8)

中西 Chair より報告があった。今年の活動報告としては、理事会、総会を開催し、特別講演会、国際会議(協賛)、SYWL関連活動、役員選挙の実施について報告があった。また広島支部設立20周年記念シンポジウムを11月に開催した。来年の活動計画について、総会開催、理事会開催、講演会等の事業案、各種コミッティ活動、学生支援施策、予算案の説明があった。

7-9 福岡支部

資料(7-9)

杉江 Secretary より代理で報告があった。今年の活動報告としては、理事会の開催、マイルストーン登録の記念式典の開催、MAW開催、学生表彰、講演会等を開催した。来年の活動計画としては、理事会開催、表彰事業、講演会の開催について説明があった。

8. Affinity Group 2018 年活動報告、2019 年活動計画案および予算案

8-1 Women in Engineering Affinity Group 資料(8-1)

稲森 Vice Chair より報告があった。2018 年活動報告として、役員会、R10 Meeting への参加、WIE ILS Tokyo の開催について報告があった。

南理事より、WIE ILS Tokyo のボランティアの費用負担について質問があった。稲森 Vice Chair よりボランティアによって費用負担の要否について確認し、海外からの渡航旅費などの一部負担するなどしたとのコメントがあった。

尾上 Vice Chair より費用負担については、参加者やボランティアのカテゴリの切り分けを明確にしたほうが良いとのコメントがあった。また、特定の企業に限らず多くの企業に支援いただけるよう工夫すると良いとのコメントがあった。

9. Coordinator 2018 年活動報告、2019 年活動計画案および予算案

9-1 MD Coordinator 資料(9-1)

橋本 MD Coordinator から報告があった。今年の活動報告として JC MD WebEx 会議と F2F 会議を開催したことと今後の課題が報告された。来年の活動計画として引き続き各支部の MD Coordinator と WebEx 会議などを開催し、ベストプラクティスなどの情報共有を進めることが説明された。

津田 Chair より、IEEE の価値について、企業のメンバが MD にいないと状況が分からないため、IPC と連携する必要があるとのコメントがあった。橋本 MD Coordinator より、そのように進めるとのコメントがあった。

9-2 YP Coordinator 資料(9-2)

西宮 YP Coordinator から報告があった。今年の活動報告としては、各支部 YP (東京、名古屋、関西) の活動についてそれぞれ報告があった。JC YP としては JC YP News Letter の発行、R10 SYWL Congress、TENCON 代理参加、Japan SYWL Workshop 準備委員会の発足、キャリアアップのエッセイコンテストなどが報告された。来年の活動計画としては、JC YP News Letter の発行、Japan SYWL Workshop への参加を計画しているとの説明があった。

9-3 LMAG Coordinator 資料(9-3)

青山 LMAG Coordinator より報告があった。IEEE R10 における LMAG の新設状況、今後 LMAG の候補支部について、TENCON2018 における講演、次期 R10 LMAG Coordinator、2019 Life Member Committee への参加について報告があった。

10. 2019 年 Japan Council 活動計画【審議】 資料(10)

杉江 Secretary より、理事会開催スケジュール、Section Assessment の還元、常設委員

会、Ad-Hoc 委員会、Affinity Group、JC Coordinator 活動、本部、R10 との連携強化などについて説明があった。

以上、2019 年 Japan Council 活動計画は異議なく了承された。

11. 2019 年 Japan Council 予算【審議】 資料 (11)

眞田 Treasurer より説明があった。主な収入である各支部からの Section Assessment 拠出金についてはドル円レート 105 円で換算した。支出については各支部へ Section Assessment の 15%を還元、さらに Section 支援費として 150 万円を計上している。収支では 380 万円程度の赤字で計画したとの説明があった。

以上、2019 年 Japan Council 予算は異議なく了承された。

次に各支部 Chair より 2019 年 Section 支援費の申請内容について説明があった。津田 Chair より支部で足らなくなった分を JC に申請するという形ではなく、支部予算のなかで効果の観点から見直しを検討してほしい旨、コメントがあった。

以上、2019 年 Section 支援費は異議なく了承された。

12. その他

12-1 R10 SYWL 2018 参加報告 資料 (12-1)

参加者を代表して西宮 YP Coordinator から報告があった。概要、スケジュール、参加者、主な内容、参加者の所感について報告があった。

12-2 次期理事会への引継事項 (案) 資料 (12-2)

杉江 Secretary より報告があった。定例業務、会計報告、IEEE JC 事務局の管理、次期執行部のアクションアイテムについて説明があった。

以上

【配布資料】

- ・ Section 支援費申請書一式 2019
- ・ 2017-2018 JC 主要イベントカレンダー

【補足】

理事会終了後には機械振興会館 倶楽部にて懇親会が開催された。